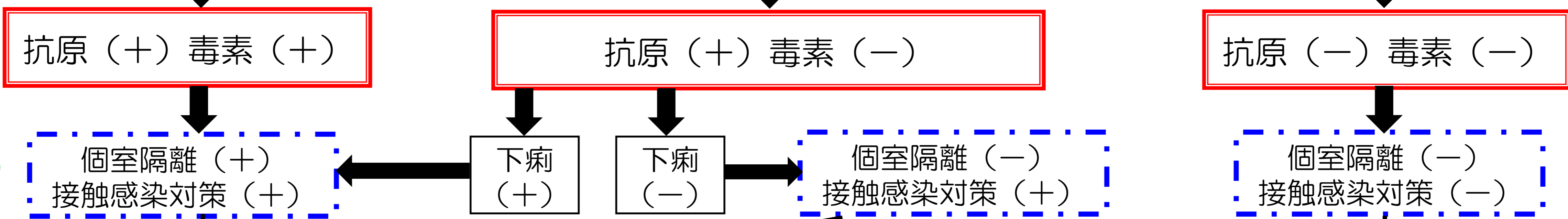


C.Difficile関連腸炎発生時の栄養プロトコール

「30日以内に抗菌薬の使用」と「下痢便（入院3日目以降に1日3回以上）もしくは腹痛」
CD検査の実施（C.DIFF QUIK CHEK COMPLETE）



注①

個室隔離 (+)
接触感染対策 (+)

下痢 (+)

下痢 (-)

個室隔離 (-)
接触感染対策 (+)

個室隔離 (-)
接触感染対策 (-)

抗原 (+)

注②

経口摂取	①G-fine 2P ②食事内容は変更なし
経管栄養	①G-fine 2P ②グルタミンF 1P ③YHフローレ 200ml/日 30/Hより開始
静脈栄養 注③	①G-fine 2P ②グルタミンF 1P

抗原 (-)

注②

経口摂取	①G-fine 1P (予防的投与)
経管栄養	①G-fine 1P ②速度の調整 ③栄養剤の種類変更を検討
静脈栄養 注③	①G-fine 1P ②グルタミンF 1P

3日後評価

3日後評価

注④ 改善あり（下痢便3回未満または軟便）

改善なし（1日3回以上の下痢便）

改善あり（下痢便3回未満または軟便）

改善なし（1日3回以上の下痢便）

経口摂取	①G-fine 1P ②食事内容は変更なし
経管栄養	①G-fine 1P ②グルタミンF 1P ③元の栄養剤への変更検討
静脈栄養	①G-fine 1P ②グルタミンF 1P ③YHフローレ開始の検討

経口摂取	①G-fine 2P ②低残渣食へ変更
経管栄養	①G-fine 2P ②グルタミンF 1P ③YHフローレー一旦中止
静脈栄養	①G-fine 2P ②グルタミンF 1P

経口摂取	①G-fine 終了
経管栄養	①G-fine 終了
静脈栄養	①G-fine 1P ②グルタミンF 1P ③YHフローレ開始の検討

経口摂取	①G-fine 1P (予防的投与)
経管栄養	①速度の調整 ②栄養剤の種類変更を検討 ③半固形化を検討 ④腸内環境メンテナンス
静脈栄養	①G-fine 1P ②グルタミンF 1P

5日後評価

注④ 改善あり（下痢便3回未満または軟便）

改善なし（1日3回以上の下痢便）

経口摂取	①G-fine 1P ②元の食種に戻す
経管栄養	①G-fine 1P ②グルタミンF 1P ③ハイネイゲル 375ml/日 30/Hより開始
静脈栄養	①G-fine 1P ②グルタミンF 1P ③ハイネイゲル開始の検討

経口摂取	①G-fine 2P ②グルタミンF 1P ③食事中止
経管栄養	①G-fine 2P ②グルタミンF 1P
静脈栄養	①G-fine 2P ②グルタミンF 1P

注①：「個室隔離」は下痢症状が2日間無ければ解除される。
注②：共通して整腸剤「ビオフェルミンRまたはビオスリー」を投与。
注③：経口摂取が不可の場合、EDチューブ挿入のうえ実施。
注④：抗原 (+) の場合、下痢が改善した後も退院まで予防的に「G-fine1P」を継続。